

オリサストロビン剤（商品名：嵐箱粒剤，嵐粒剤）のいもち病，紋枯病
に対する効果

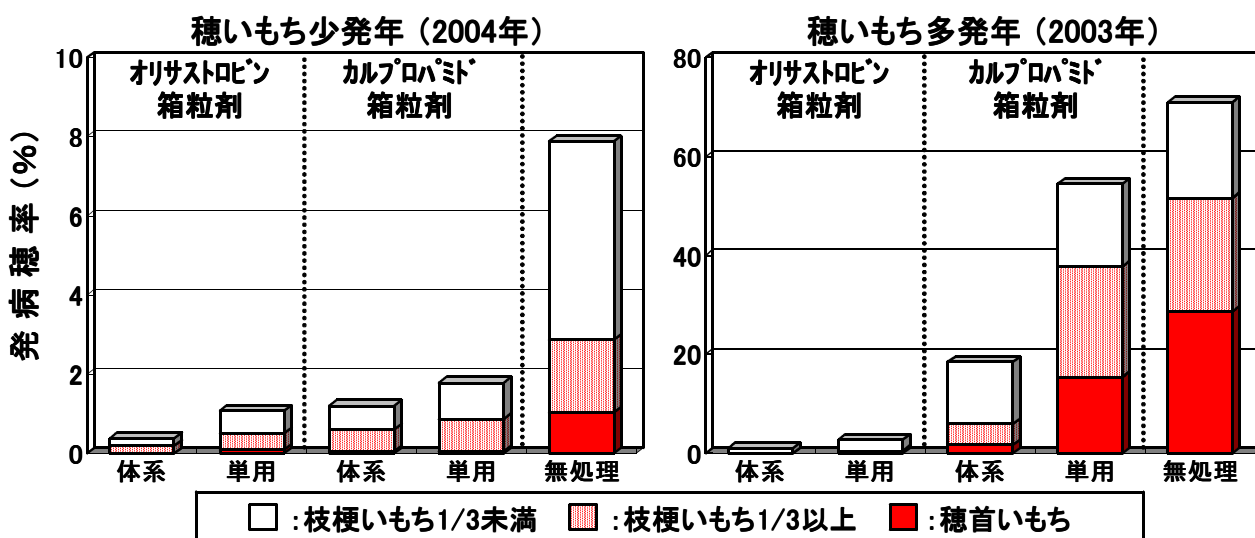
古川農業試験場

1 取り上げた理由

新規に開発されたストロビルリン系いもち病防除薬剤であるオリサストロビン箱粒剤及び同水面施用剤のいもち病，紋枯病に対する防除効果を検討したところ，両病害に対する高い防除効果が明らかになったので普及情報とする。

2 普及情報

- 1) 葉いもちに対する効果は高く，穂いもちについても高い効果の得られる場合が多いことから，穂いもち被害リスクの低い薬剤と言える（図1，2）。
- 2) 紋枯病に対する効果は専用剤には劣るが，他のストロビルリン系の薬剤に比較して高い（図3，4）。



注)体系:箱粒剤移植当日処理+茎葉散布剤穂揃期散布(フェリムゾン・フサライドフロアブル)
単用:箱粒剤移植当日処理

図1 オリサストロビン箱粒剤の単用及び体系処理による穂いもち防除効果

3 利活用の留意点

- 1) 耐性菌出現の危険性を避けるため，ストロビルリン系薬剤の連用をしない。また，いもち病は種子伝染するので，自家採種はしない。
- 2) 同様の理由により，採種ほ場ではストロビルリン系薬剤を使用しない。
- 3) 箱施用剤は，嵐プリンス箱粒剤6，嵐プリンス箱粒剤10，嵐ダントツ箱粒剤の混合剤3種，水面施用剤は嵐粒剤の単剤1種である。

問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間
新農薬による病害虫防除試験（平成10年から18年）
- 2) 参考データ
 - a 適用作物・病害虫と使用方法

薬剤名	作物名	適用病害虫	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	オリサストロビン
嵐箱粒剤	稲 (箱育苗)	いもち病	育苗箱 50g/箱	育苗箱の上から均一に散布する。	移植3日前 ～移植当日	1回	2回以内 (但し、育苗箱は1回以内、本田では1回以内)
		紋枯病					
嵐粒剤	稲	いもち病	3kg/10a	湛水散布	葉いもち初発10日前～初発時まで		
		紋枯病			出穂前日まで、但し収穫21日前まで		

b 防除効果に関するデータ

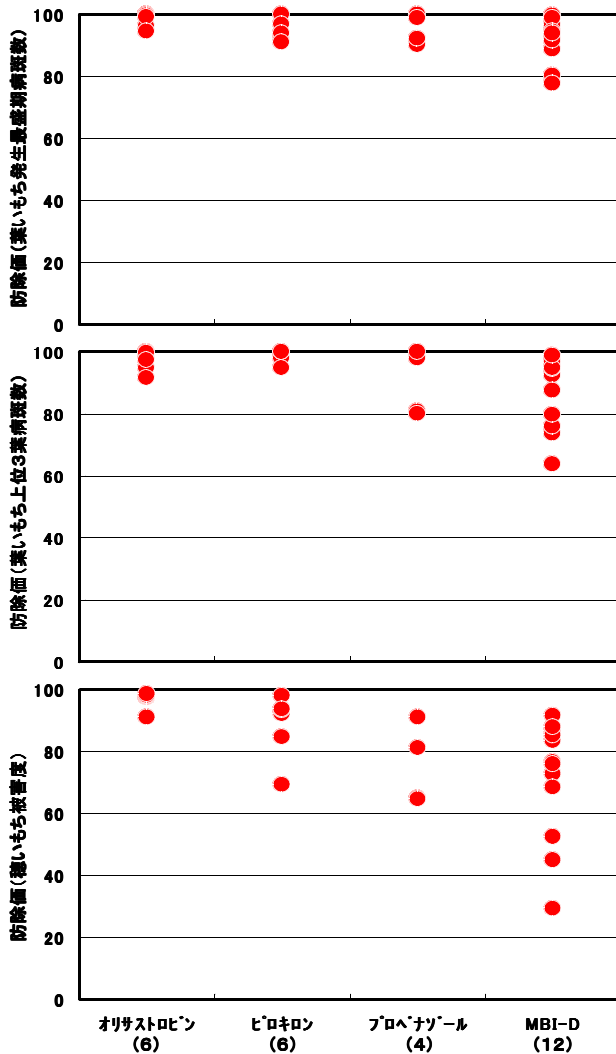


図2 各種箱施用剤の葉いもち及び穂いもちに対する防除効果 (平成10年～18年: 農業委託試験, ()内はサンプル数)

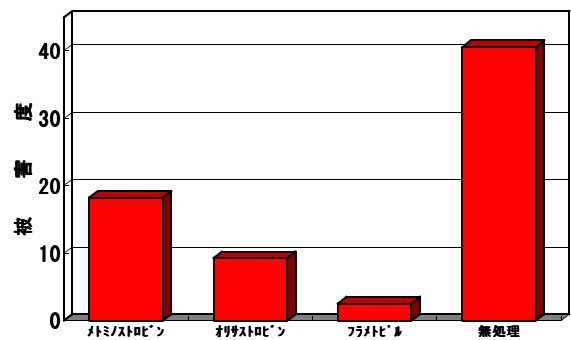


図3 オリサストロビン箱粒剤の紋枯病に対する防除効果(2003年: ひとめぼれ)

注) オリサストロビンは移植当日施用、メトミノストロビンは葉いもち初発時水面施用、フラメトピルは出穂2週間前水面施用

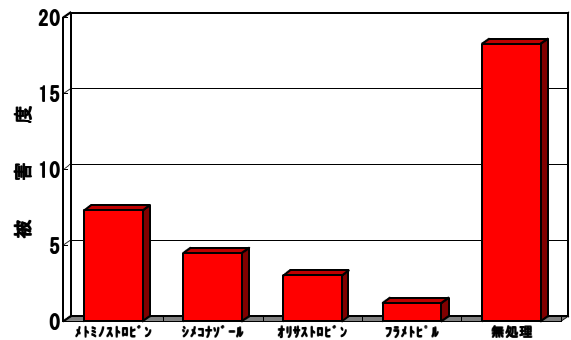


図4 オリサストロビン粒剤の紋枯病に対する防除効果(2006年: ひとめぼれ)

注) 各薬剤とも水面施用剤での効果。オリサストロビン、メトミノストロビンは葉いもち初発時水面施用、シメコナゾール、フラメトピルは出穂2週間前水面施用

- 3) 発表論文等
特になし